

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300063		
法人名	株式会社 楓		
事業所名	七隈の里 グループホームなごみ ユニット名 2・3階		
所在地	福岡市城南区七隈2丁目7-41		
自己評価作成日	平成25年11月3日	評価結果確定日	平成26年1月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyouvoCd=4091300063-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「いいこと」を探し、そこから「出来ること」「したいこと」を常に見つけ、生活の中でのリハビリを行いADLを維持し、QOLの向上に努めている。また、本人の思いを大切にし、最後までその人らしく生活して頂けるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「敬い・支え・慈しみ・地域」をめざすサービスの在り方として、理念を深く掘り下げユニット事に話し合いがなされ、実践に向けた目標を掲げて日々意識しケアサービスに取り組んでいる。また、利用者の「思い」を大切に、個人の希望や要望を常日頃のサービスを通して把握し、難しいと思われるサービスも不可能と決めつけずあらゆる支援を職員で考え、家族や地域に働きかけ利用者の「思い」を成し遂げようとするケア努力をおしまない姿勢が優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬い・支え・慈しみ・地域という理念をも掲げており、職員は出勤時に理念を読み上げてからケアを行っている。入居者のしたいこと・出来ること探しを行っている。また、各ユニットでスタッフ1人1人で作り上げた理念を作り、それに基づいたケアを実施している。	事業所理念は職員の名札の裏に明記されておりいつでも確認できる。出勤時には理念を読みあげ意識付けしサービスに取り組んでいる。また入職後1ヵ月間は、研修期間であり理念や地域サービスの意義や役割について教育している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。介護保険サービス・認知症について等併設施設の小規模多機能ケアと連携し、地域との交流を開催している。また、避難場所の提供や子供110番などの実施を行っている。	地域の一員として自治会に加入している。事業所では地域交流をはかる為に季節行事(もちつき、夏祭りなど)を開催し周辺の方にも参加を呼び掛けている。気兼ねなく事業所に足を運んで頂ける様に月1回「ななくまカフェ」を開いている。	月1回「ななくまカフェ」を開催している。このカフェは運営推進会議の参加者からの呼びかけで始まったもので、地域との交流の広がりにつながるものである。参加者が増えるよう継続的に開催を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険のサービスに対しての相談等があり、対応している。また、地域での介護についての勉強会など開催していくため、併設施設の小規模多機能ケアと連携し地域に向け情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居様・家族並びに地域代表・市役所・包括センターに参加していただき、様々な意見を取り入れサービス改善に努め、よりよいサービスを考えている。	毎月行われ、利用者、利用者家族、地域代表、市役所、地域包括センターが参加。会議の中で地域交流サロンの「ななくまカフェ」の案が上がり開設されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、入居者・家族・地域代表・近隣代表に参加していただき、様々な意見を取り入れ、サービスの改善に努め、よりよいサービスを考えている。	運営推進会議の場で事業所の現状を報告し相談や連絡を行っており、出された意見をヒントにサービス改善につなげている。報告や相談は窓口担当者に随時行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的な勉強会や会議などで全スタッフ共通理解をし、その意味や意識を常に持つよう、理解を深めている。	プログラムにもとづき定期の研修やフロア会議を行っている。また日常のケアの中からふりかえり身体拘束をしないケアの意識を持つようにしている。ご家族から拘束の要望があってもその弊害を説明し事業所の取り組みを理解してもらう努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、施設内でのマニュアルを作成しており、勉強会での意識付けや知識向上に指導を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会にて制度の内容や意図、意味を専門の社会福祉士による講義にて理解を深めている	勉強会で事例を挙げ制度の内容や必要性を学んでいる。現在は、成年後見人補佐役2名がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要取扱説明事項・契約書の読み上げ、その際に同意の説明を得ている。不明な点・疑問点はいつでも応えられるように心がけている。契約書において管理者のみで行うのではなく職員が説明を行うことで各職員が意味を理解し、いつでも入居者・家族へ応えられるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や、思いを運営会議・運営会議で伝え、その内容をみんなで理解し考える。また、その結果内容を早急に伝えるよう努めている。	利用者家族が訪問した際にはご家族へ声かけを行い意見や要望は無いか確認している。遠方家族には定期的に電話連絡や手紙を書き、利用者の近況報告を行なっておりご家族の意見や要望も伺っている。意見や要望があれば早急に対応するように心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内に目安箱を設置し、業務改善・向上に努めている。職員の意見の反映の場として職員会議フロア会議などがある。	事業所独自の「ありがとうカード」があり日々の業務の中で感謝やお礼を述べ、管理者、職員ともに良い関係づくりにつながっている。また業務改善やケア向上の気付きの一環として「ヒヤリハット賞」を毎月もうけ提案ができやすい環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を考え半年に1回は職員による自己評価を行い、職員の不安や目標に対する思いなどを把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の採用に関しては、職員面接の際、複数で行うようしている。幹部のみの意見で決定するのではなく、現場職員の意見も取り入れていくことを中心にしている。これは、現場で働く職員によるチームが大事だと考えているからである。	職員の年齢は幅広く20歳代から60歳代までおり、男性職員、女性職員ともに在職。また認知症ケア専門士2名もいる。職員面接の際には現場職員の意見も重視している。また、パート職員でも本人の勤務希望を重視し妊娠後の職場復帰にも理解を示している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	施設内の勉強会・外部研修を行い、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	年度ごとに研修プログラムがあり、また職員それぞれにあった研修も行っている。フロア会議にて情報を共有し、さらに全フロアに必要な情報を周知するようにしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日報にて自己評価・現状把握が出来るようにしている。日報では、施設長・管理者・主任・リーダーによりコメントがあり、職員の喜びや不安を把握している。半年に1度各職員による自己評価を行い、職員一人ひとりのケアの実際の力量の把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム協議会が開く研修など積極的に参加し、同業者との交流の場を作るようしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、入所前カンファ、三日目カンファ・1週間カンファ・1ヶ月カンファを行い、入居者の「したい事・出来る事」や意思をスタッフ同士での情報共有、対応を考え、本人が不安無く安心して過ごして頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「出来る事やしたい事」「出来ていたこと・していたこと」を知り、本人や家族が思っている不安や困っている事、本人やご家族のニーズを知る為に、入居前カンファ、アセスメントを行っている。面会時、その都度家族へ日々の様子や要望を聞き、サービス計画書作成に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に聞いた情報をもとに、3日目カンファ、1週間カンファを行い、本人の状態・要望を聞いてサービス計画作成に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ること、したいことを尊重し実現するためには何が必要かを本人と一緒に考えながら行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に添い、手紙や電話などを随時行っている。家族へ月に1度手紙と写真にて近状や本人の様子を伝えている。行事の参加の声かけも行い、家族も一緒に楽しんで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出勤時には入居者一人ひとりに声をかけ、安心して頂けるよう努めている。顔や名前が一致できるよう、顔写真付きの名札を使用し、誰にでも見えるようにしている。	入居前の思い出の地「天草へ帰りたい」という希望を実現する為あらゆる関係機関に連携を取り利用者が一人で帰宅する支援を行ったことがある。また、行きつけの美容室や年賀状作成など日常の支援も積極的に行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の一人ひとりの思いの理解に努め、それが出来る環境を作りを行っている。また、集団であっても一人ひとりのケアを大切に、職員が一緒に行うことで孤立した状況にならないよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アルバムの作成をしたものを本人へ渡し、「いつでも遊びに来て下さい」という声かけを行っている。また、転居先の施設等にも面会に行くようしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にアセスメントを行い、入居前の「出来ること、したいこと」を聞き、本人の思いを大切に、また、家族からも「出来ること・したい事」などを聞き出し、本人の希望に添えるように対応する。	入居前のアセスメントは出発点であり、日々の行動や言動から思いや意向の把握につとめている。毎月開催しているケア会議で職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、入居者、家族にこれまでの生活状況や暮らし肩、趣味、趣向及びサービスの利用状況を尋ね、一人ひとりの生活歴を把握するように努めている。これらを基に、フェイスシートを作成し、一人ひとりの生活歴や「出来る事・したい事」を職員全員がすぐに分かるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメントにより、入居者の「出来ること・したい事」や生活歴を聞き出し、フェイスシートを作成している。それを基に、一人ひとりに日課表を作成している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のアセスメントにより入居者の「出来ること・したい事」や生活歴を聞き出し、フェイスシートを作成している。それを基に、一人ひとりに日課表を作成している。また、一ヶ月ごとにモニタリングを行い、評価を行っている。必要時には、適時カンファを行っている。	まず担当者が利用者のニーズを考え、次にユニット職員全員で計画書の原案を作成し、最後に計画担当者が計画を作成する。ニーズを把握する際、『家に帰りたい』ではなく、『なぜ家に帰りたいか』その理由をわかりやすく記載するよう指導している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化や思い等にすぐに気付けるようにしている。担当職員を中心にケアプランを作成し、統一したケアが出来るようにしている。入居者の気になる様子があれば、その都度カンファを行い、統一したケアが行えるよう、情報共有している。また、変化があれば随時カンファを行い、ケアプランの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族のその時のニーズにすぐ気付けるようしている。普段より話を聞き、情報交換に努めている。入居者の能力に合わせ、その方の出来ることを大切にケアを行い、連携施設や地域包括支援センター、併設施設である、小規模多機能ケアとの連携を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等の際、近隣の方々やボランティアなどによるサービス支援を行い、心豊かな暮らしが出来るように支援している。また、運営推進会議において、地域において、地域の現状把握に努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により、毎週火、金曜日に往診を行っている。入居者一人ひとりに丁寧な診察が行われている。ご家族の希望にも添い、希望時や必要時には、他医療機関への受診もかかりつけ医による紹介状を基に、連携をとりながら受診できるようしている。	利用者や家族の要望があれば希望する医師による医療を受けることができる。医師の診察が必要と認められる場合、遠方の家族にも必要性を電話し同意をえてから通院介助を行い、その結果を報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護日誌はSOAPで記入を行い、入居者の声を記録することで、容易に日常の様子や情報を収集することが出来、入居者の変化にいち早く対応できるように、介護・医療で情報交換をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリーよりお互いに情報交換をしている。また、職員がお見舞いに行き、家族や医療ソーシャルワーカーと情報交換や相談に努め、現状把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、入居者・家族に介護内容・精神的支援について相談し入居者・家族の意見を聞くようにしている。かかりつけ医とも連携して、希望に沿って、最後まで見ていく体制を整えている。	契約時の説明では不十分と考え、医師から終末期の時期が近いと報告をうけると、家族に同意をえるようにしている。これまでに3件の対応事例があり、職員の精神的負担を軽減するために、一人では対応させず、管理者が必ずフォローしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成している。応急処置や心配蘇生法などが出来るよう、施設内・施設外研修などにも積極的に参加し、技術を身につけている。また、時間体制でかかりつけ医と連携し、緊急時に早急に対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画により、年に2回避難訓練を行い、避難訓練通路または避難場所の確認を行い、災害時の対応マニュアルを作成している。消防とも連携し、すぐに駆けつけて頂けるよう協力体制を築いている	消防署が参加する避難訓練の際には地域住民に声かけを行っているが参加は現状ないとのこと。また、可能な利用者は避難訓練に参加している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で接遇を理解し、全職員が入居者一人ひとりの人格・誇りなどを損なわない言葉かけをし、その方に合った対応をしている。入居者の思いを尊重し、職員が共通認識のもと、お話を聞き・声かけを行うよう努めている。	『食事のメニューがきまっていることも利用者の自由を侵害している。』その気持ちをもって利用者に接するよう教育している。オムツが不要となった利用者を褒めてともに喜ぶように、利用者の誇りを尊重している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の出来る事・したい事を聞き、本人の思いや出来る事・したい事に沿ったケアプランを作成し本人の思いを最優先したケアを行っている。本人の力を奪わない支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の身体的・精神的状態把握に努め、本人に合った生活を送れるよう、支援している。職員が、日常業務を優先させるのではなく、本人の気持ちに配慮し、職員の連携を図ることで、その日の本人の「出来る事・したい事」を視点している。外出を希望された際には「私もついて行っていいですが？」と寄り添い、個々の思いに添えるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む理髪店希望等、希望があるときは家族や職員と共に付き添い希望に添っている。毎朝、起床時には、洗面、整容を実施しており、日中に至っても整容、身だしなみは十分配慮している。また、本人希望があれば、化粧などの購入を支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付け等は役割を持って頂き、入居者一人ひとりの役割を奪わない支援を行っている。また、本人の負担にならないよう体調に合わせた声かけ、見守りを行っている。役割で楽しめるよう支援している。	各ユニットのキッチンで毎食調理を行い準備段階から、においや音で食事を楽しむことができる。できるだけ普通にもりつけを行い、職員がその場でたべやすく切ってあげることも楽しませる取組みの一つである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者がどれだけ水分を摂っているか、スタッフが把握し、水分量が少ない入居者には声かけを行い、水分確保の支援をしている(水分チェック表記入)。食事意欲がない等は、少しでも栄養摂取をして頂けるようその方に合った工夫をしてる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。個人に合わせ、スポンジ・ガーゼ・舌クリーナーを使用し、口腔内残渣物を取り除き、個別の支援を行っている。また、毎週歯科往診を依頼し、定期的に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの尿意・便意に合わせることはもとより、感覚が薄れている方に関しては、排泄チェック表を使い確認することで、本人に合った排泄パターンを掴み、統一した排泄誘導が出来るようにしている。	日中はおむつを使わない介護を実践している。やむをえず失禁した場合、居室やトイレで対応し羞恥心に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時・適宜の水分補給、腹部マッサージを行っている。また、医師や看護師・作業療法指導によるプログラムに沿い、便秘予防に積極的に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜から土曜の14時から16時半の中で、毎日入居者に入浴希望の確認をし、本人の状態に合わせた入浴を行っている。体調不良等で入浴できない場合であっても、清拭等を行い清潔保持に努めている。また、羞恥心に配慮した見守りでの対応をし、入浴介助、声かえに努めている。	『ゆっくり入りたい』『長くつかりたくない』という要望に対応している。毎日入浴したいという利用者があれば対応していきたいとのことである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣を日課表に組み込み、その方の生活サイクルの構築に努めている。入居者の健康状態の把握に努め、倦怠感があれば声かけを行い、休息できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬を一包化し、入居者に安全に服薬出来るようにしている。服薬提供表をファイル化しており、体調不良等あれば、速やかに医師へ報告している。他科受診した際でも、提供薬局に処方箋を渡し、飲み合わせなどでのダブルチェックを行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに「出来る事・したい事」での役割を持ってもらい、その中で楽しくをできるように支援を行っている。また、散歩・買い物はほぼ毎日行き、大きい行事を定期的に行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の誕生日には、家族や担当職員と外出を行っている。また、普段より近くにスーパーや公園に出かけること、外の環境に触れ、外部との交流を図っている。入居者の行きたい場所へできる限り外出出来るようにしている。	近所のスーパーに買い物に行く、近くの公園に1対1で散歩にいく、歩行困難な利用者も月に1～2回は外出支援を行うなど日常的な外出支援に積極的である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、自分でお金を持って頂いている。買い物の際自分で支払いが出来るような支援をしている。買い物の希望があれば、買い物が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時より家族に連絡などの相談を行っており、入居者が電話をかけたいと希望するときは、制限なく連絡できるようしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の写真や作品を廊下などに掲示し、楽しみを感じたことを掲示している。また、季節に合わせた飾り付けなども掲示し、季節感を出している。また、テレビ、音楽は音が混合しないように一方しか流さないようにしている。	イベントでの外出後写真を壁に掲示し楽しく思い出せるよう配慮している。食事中はテレビをつけず、やさしいBGMを流しており、リラックスして食事を楽しんでいた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いて、テレビを視聴したり、自分の好きなように、リラックスし過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのある家具やテレビを置くことで、自分が居心地の良い空間作りに配慮している。	嫁入り箆笥、仏壇、ひ孫の写真など、居室への持ち物持参をうながしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできることを探し、その方のADL状態を把握し、手すり等環境整備を行い、自立した毎日の生活が送れるよう、一人ひとりの楽しみや役割の確立を共に考えている。		